

1. まえがき

文書領域の余白は, 上 28 mm, 下 24 mm, 左右ともに 20 mm 空ける.

発表タイトルは 14 pt でセンタリングする. フォントは, ゴシック体で, 太字とする. 発表タイトルの下に 10 pt で 1 行分空ける.

発表者氏名は右端によせる. 発表者氏名の下に 10 pt で 1 行分空ける.

本文領域は 2 段組とし, 段と段の間は 8 mm 空けることとする.

本文の章は「1. まえがき」から始めることとする. また, 本文の文章は 10 pt で記述することとし, 行間は 1.5 mm とする.

ページ番号 (フッタ) は用いないこと. 通し番号 (「J-1」など) は後から印刷するので記述しなくてよい.

2. 研究概要

章見出しは 12 pt, 節見出しは 11 pt, 項見出しは 10 pt を基本とする. 章番号とピリオドはいわゆる半角の Century フォントを用いることとし, ピリオドの後にいわゆる半角スペースを置いてから見出し語を書くこととする. 1.2 節がないのに, 1.1 節を設けるのは論理的におかしいので注意すること.

英数字はいずれもいわゆる半角文字を用いること.

図のキャプションは図の下に表記すること (図 1). 逆に, 表のキャプションは表の上に表記すること. 図, 表のキャプションの説明文の最後にはいわゆる全角の句点を置く. 当然, 図番号や表番号は本文中で引用しなければならない.

3. まとめ

参考文献の見出しには章番号は振らないことに注意する. 当然, 参考文献で挙げた文献は, 本文中で必ず引用すること.

参考文献は 9 pt とし, 行間は 1 mm で列挙する. 文献名を囲む記号の開始は「`“`」であり, 「`”`」ではない. 向きに注意して確認を怠らないようにする.

各項目の区切りは半角のカンマとスペースとし, 最後は半角のピリオドとする.

複数の文献を同時に引用するとき, 2 つまでは半角カンマで区切る [1,2]. 3 つ以上の場合は, ハイフンで最初と最後の文献番号を示す [3-7].

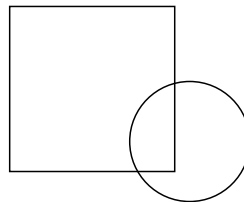


図 1 図のテスト.

参考文献

- [1] 情報 一朗, “「参考文献」の見出しには章番号をつけない”, 関東高専学会学会誌, Vol.5, pp.72-73, 2004.
- [2] 高専 太郎, “参考文献は 9 pt, 行間 1 mm で記述する”, 日本高専学会学会誌, Vol.19, pp.88-91, 2005.
- [3] 工学 華子, “囲む記号の開始記号の向きに注意”, 東日本高専学会学会誌, Vol.24, pp.54-55, 2003.
- [4] 清見 花子, “区切りは半角のカンマとスペース”, 世界高専学会論文誌, Vol.34, pp.1006-1009, 2005.
- [5] 台東 次郎, “最後は半角ピリオド”, 宇宙高専学会技術報告, Vol.3, pp.12-15, 2006.
- [6] 木更 三郎, “URL での参考文献はなるべく避ける”, <http://www.kisarazu.ac.jp/>
- [7] 木更 四郎, “URL には下線を引かず, 最後を示すピリオドも記述しない”, <http://www.j.kisarazu.ac.jp/>